

学校や職場の皆様へ 理解していただきたいこと

APD（聴覚情報処理障害）は、音は聞こえていても言葉が聞き取りにくいという特徴があります。

ですから、学校や職場で人が話している内容を聞き逃したり、十分理解できていなかったりして、当事者の意識に反して、「集中していない」とか「やる気がない」と誤解されることがよくあります。

聞き取りにくさは、特ににぎやかな場所や慣れない環境で顕著になります。そのため、APD当事者は入学や進級、就職といった節目の時に苦しむことが多い傾向があります。

ただ、APDであっても常に聞き取りが悪いというわけではありません。話し方や環境を少し変えたり、機器を使用したりすることで、聞き取りや理解は大きく改善し、コミュニケーションが取り易くなります。学習や仕事の効率が上がり、ストレスも軽減されます。

周囲の皆様はこのリーフレットの内容を参考にし、理解と配慮をしていただければと思います。

APD当事者が学校、職場、社会で、充実して過ごせるようご協力をよろしくお願いいたします。

How to Support
People with

APD



■本リーフレットは岡山大学図書館にリポジトリ登録されています。

<https://doi.org/10.18926/63051>

■PDFはダウンロード・複製使用が可能です。

Copyright: © 2021 by the authors. This is an open access learning material distributed under the terms and conditions of the Creative Commons Attribution (CC BY) license (<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/>).

編集 岡山大学病院耳鼻咽喉科 片岡祐子

How to Support
People with

APD

聴覚情報処理障害

Auditory Processing Disorder



APD (聴覚情報処理障害)とは…?

「音は聞こえていても、言葉が聞き取りにくい」
のが特徴です。

APDは聴力検査では異常はなく、音そのものは聞こえますが、
状況によって音声を言葉として聞き取れないことがある状態です。

こんなことで悩んでいます

- ・雑音があると話の内容や指示が聞き取れない
- ・早口だと聞き逃す
- ・グループ学習や会議の話についていけない
- ・複数の人が同時に話すと混乱する
- ・電話を通した声が聞きづらい
- ・長い文章だと頭に残らない
- ・慣れない用語が出てくると聞き逃す
- ・緊張すると相手の話が理解しにくい
- ・口頭での指示を忘れやすい
- ・聞きながらメモを取るのが苦手



でも 常に聞き取りにくいというわけではありません。
少しの工夫をしていただくことで、聞き取りや理解は大きく改善するのです。

How to Support People with

APD

お願いしたい配慮と支援 項目の配慮をお願いします。

①話し方

重要

- ゆっくり、はっきり、適度な大きさの声で
- できるだけ静かな場所で
- 近距離で、正面から
- 長過ぎない文章で
- 最初に名前を呼んで注意喚起を
- 通じない時は簡単な言葉で言い換えを
- 急に話題を変えないで



②環境調整

- 空調や機械音、電話から離れた位置への
座席の配置や業務場所の調整
- 先生や直属の上司、進行役と近い座席の配置
- 話合いや会議では1人ずつ話す



③その他の配慮

- 授業・会議内容の文章化
(配布資料、板書、議事録等)
- 重要案件の文字・文章化(メール、メモ等)
- オンライン会議の画面共有
- 電話を受ける業務の免除
- 補聴援助システム※、インカムのマイク使用の協力



※マイクの音声を補聴器に直接送る機器

重要

「外国語のリスニングで聞き取りやすいような話し方・環境」だと考えてください。

使わせてもらいたい機器や道具 項目の使用のご協力をお願いします。

音声を大きくする/直接送る

- 補聴器
- 補聴援助システム
- インカム



雑音を抑制する

- ノイズキャンセリング機能付きイヤホン
- 耳栓



文字を表示する/音声を記録する

- 音声文字変換
- ボイスレコーダー
- 電子メモ
- オンライン会議等の字幕表示、チャット

